

一人は万人のために、  
万人は一人のために

生協の理念

わたり病院玄関に掲げてあります

# ふくしま



# 医療生協

2022年 新年号 第424号  
発行責任者 山口 裕  
<http://www.watari-hp.jp/>

福島医療生活協同組合	TEL 024-522-1236	〒960-8141	福島市渡利字中江町66番地
医療生協わたり病院	TEL 024-521-2056	〒960-8141	福島市渡利字中江町34番地
生協いいの診療所	TEL 024-562-4120	〒960-1301	福島市飯野町字後川127-2
医療生協わたり病院附属 ふれあいクリニックさくらみず	TEL 024-559-2664	〒960-0241	福島市笹谷字塗谷地20-1



〈撮影〉渡部幸一さん 〈協力〉さくら保育園

あけまして  
おめでとう  
ございます

寅

## 生協強化月間2021

### 加入増資運動にご協力 ありがとうございました!

組合員活動部 佐藤 綾子

期間中に、多くの組合員のみなさんから加入と増資をしていただきました。ご協力ありがとうございました。

2020年の早春から新型コロナウイルスに翻弄される日々が続きました。

わたり病院では、受付での手指消毒や体温の測定、不織布マスク着用を標準化し、病棟では、面会制限を行ってきました。入院されている患者さんのご家族からは厳しいご意見をいただきましたが、患者さんのいのちを守るためには、やむを得ない対応でした。

組合員活動では私たち医療生協の得意とする「集まる」ことが大幅に縮小されました。しかし、支部活動や班会、サークル活動が制限される中でも、各地域の支部運営委員のみなさんは知恵を出し合い、電話や班ニュースで互いの近況を知らせ合いました。また、高齢者の誕生日訪問は、プレゼントに手紙を添えて自宅ポストに投函したり、季節のポストカードを郵送するなど、様々な工夫をしてつながりを紡いできました。

福島医療生協では、スマホを使った新しいつながりづくりなどに挑戦してきました。これからも、「人と触れ合う喜び・つながる喜び」を感じられる医療生協活動をすすめていきます。

新年あけましておめでとうございます。

コロナ禍の第6波に備える形で新年があげました。

2021年、私たちは医療体制の厳しさを抱えるなかでスタートしました。例年、楽なスタートはありません。いかにして「人と組織」を整え、いかにして「住民の暮らしといのち」に向き合うか、大きな課題を抱えてのスタートでした。

PCR検査の継続、ワクチン接種の完遂、そして落ち込んだ



福島医療生協 理事長 齋藤 紀

## 地域を支え、支えられる 医療機関を目指して

私たちは50年のなかで「わたり病院」を真ん中に、北に「クリニックさくらみず」、南に「いいの診療所」の形を作り上げてきました。住民の近くから発し、往診・診療所・病院、そして他院所との連携まで広がる、住民安心のラインを追求してきました。現在多くの入所施設へも訪問診療を行っています。往診管理患者数は250名を超える規模になっています。生きてゆく形に沿い、その「生きる」を大事にする医療を考えてきました。その道筋は変わりませぬ。

健康数を大幅に回復させてきました。コロナ対応の影響で入院収益は不十分でしたが、緩和医療・在宅医療・透析医療は困難を克服しつつ、要望を受け止めつつ、現場は努力健闘したといえるでしょう。

今年一年、地域から支えられる医療をあらためて決意し、新年のあいさつといたします。みなさまとご家族さまのご多幸をお祈り申し上げます。

二〇二二年正月 元旦

法人一年間の前進の指標、事業継続の指標である「(年度)必要利益」の確保も見えてきています。年度末までもうひと頑張りです。

コロナパンデミックにより二次的にもたらされた負の現象は影のパンデミック(シャドー・パンデミック)と呼ばれ、それは当初、女性・子どもへの虐待増加をさしました。しかし感染後遺症も含め、社会的弱者を広く捉えるシャドー・労働・人権の問題として鋭く認識されてきています。私たちのアンテナも高く上げなければなりません。

# サークル活動再開！

コロナ禍も三年目となりまして。第4波、5波の影響で5月、8・9月と二度にわたって班会やサークル活動は軒並み中止となり、一昨年よりも大変な一年となりました。10月には落ち着きが見られ、班・サークル活動も再開し、感染対策に十分留意しながら、外来フロア行動や誕生日訪問などもがんばりました。中止になりあらためて

づいたことは、人と人とのつながりの大切さでした。こんな状況だからこそ地域の結びつきが強く、支え合える環境づくりが求められていると思います。そのためにも医療生協は、どんな状況でも「みんなが集まると楽しい」班会サークル活動の応援をしていかなければならないと強く思いました。

コロナ禍で、東京に嫁いでいた娘の葬儀にも参列できませんでした。その後も、感染が怖くて外出もできず、自宅に友達を呼ぶこともできず、本当に気が狂いそうな毎日でした。こうしてサークルでみんなと会ってお話ができ、本当に楽しく気持ちが楽になりました。



川西 やまぼうしサークル



2021年  
スマホ新班です



蓬萊 ヨガサークル



水中ウォーキング



医療生協連  
通信教育終了!!

ハイキングの会「やまぼうし」は、早朝5時30分に集合して、活動内容を一時間のウォーキングに変更しました。まだ人々が動き出さない静かな時間が、コロナ禍の中でも楽しくて、思いがけずたくさんの方が足を運んでくれました。やっぱり人と人のつながりは工夫して大切にしていきたいと思えます。



大笹生笹谷 絵手紙サークル



最高齢の班長さん中心に  
楽しく活動中!

清水北 はなかつみ班



靈山 石橋班

健康班会  
がんばります

## 山木屋地区の 地域共同体再生について②

前回の続き

シリーズ 原発事故から10年を経て ⑩

福島県民主医療機関連合会 事務局 松崎 聡

川俣町山木屋地区民は、「土地に根差して生きる権利」を原発事故により奪われた（ふるさとのほく奪）。取り戻すためには、「人・自然・先祖からの4次元の関係」が関わりあつた、地域共同体の再生が必要である。

### 地域共同体再生の提案

私から、4つの提案をしたい。

- ① サロン活動：介護予防等の目的で集まる（機能的地域共生社会）ではなく、生活上必要な地域集団（基盤的地域共生社会）の再生を目的とした活動が必要である。
- ② 最期を迎えられる医療介護：最期まで暮らせる事で、住民としての豊かな生き方、豊かな死（看取り）、自らが先祖として共同体の一部となる安心感、その精神がふるさとで生き続ける。そのために、最低限の在宅医療介護の保障が必要である。

- ③ 地区外関係人口の活動を活発に：地区外の人に山木屋の魅力を見直し、発信される。山木屋の「生き方・精

- ④ 土地に根差して生きる活動：山菜や産直野菜など小規模でもよいので、作物を作つて売る（生業とする）ことで、土地に根差して生きる日常を取り戻していく。

### 心の分断を解消するために

現在、住民・行政・社協・医療生協などが協力し合い、様々な活動（医療生協スズラン班などのサロン活動、産直市などの催し）が展開されている。私も、山木屋の調査研究について現地で話したり、地区内外の若者たちと山木屋でそば

や麦を作り、ワサビ採りにも行った。川俣支部の他地区の組合員を山木屋に案内もした。避難者に少し批判的だった組合員も、「（原発事故時の）風向きが違えば、自分も同じ立場になっていた」「山木屋を悪く言っている場合でない」と現地を訪れることで、気持ちが変わつていった。山木屋を含む原発事故で痛手を受けた様々な地域で、人のふれあいと協同の活動を進めることで、賠償などによる心の分断が少しでも解消できると信じ、今後も活動していきたい。

## 福島第一原発の 視察に参加して

渡利支部 佐藤 典子

「宮城の魚が汚れては嫌」と署名した孫に背中を押され初めて参加した。女性広報員の案内でサブドレン、ALPS、排気塔などを見て状況把握が深まった。

処理後の基準値越え核種は処理の見込みはあるのかの問いに「完全にきれいになるまで流すことはあり



班会で山木屋を訪れた川俣町飯坂のみなさん(谷口農園で)



# 旨くてかんたん 正月料理

[大笹生笹谷支部] 佐藤 正子

## ヤイさんの昆布巻



[材料(40本分)]

- 煮昆布 …… 18cm×8cm(40本)
- 身欠きニシン …… 1.5cm(40本)
- かんぴょう …… 約8cm(40本)
- 酒 …… 1カップ
- 砂糖 …… 大さじ4杯
- 醤油 …… 2/3カップ (だし醤油ならまろやか)
- みりん …… 2/3カップ

できあがり



### ■作り方(今回は圧力鍋使用です)

- ①昆布は5分ほど水につけて洗い、水を切る。(またはふく)
  - ②昆布は、幅8cm、長さ18cm程度に切る。
  - ③身欠きニシンはお湯で洗い余分な脂をとり、小骨などあれば取り除き1.5cm位の幅で斜め(歯当りが良い)に切る。
  - ④かんぴょう(約8cm)は水洗いをする。
  - ⑤昆布を巻く。身欠きニシンを芯に端から巻き、かんぴょうはゆるく巻いて止める。(昆布が膨らみます)
  - ⑥圧力鍋に巻いた昆布を入れ、調味料は一度に入れる。昆布がひたひたになるまで水を加えて煮る。(中ふたを忘れない!)
  - ⑦圧力鍋の「おもり」が回ってから、弱火で10分煮る。圧力鍋がない場合、竹串などがスーと通るまで煮る。
  - ⑧自然減圧をして、味の調整をする。圧力を掛けないで(普通の鍋ふたで)20分ほど(水分がなくなるまで)煮詰めて出来上がり。
- ※これを基本に、芯になる具材を工夫して、我が家オリジナルも良いですね!

鈴木ヤイさんの昆布巻を紹介します。ヤイさんは「松川事件家族会」で中心的な役割を果たし、昨年8月に100歳を迎えました。現在も元気な日々をお過ごしです。

ヤイさんは、ご主人がある日突然\*松川事件の被告とされながらも、この昆布巻で家族と被告家族の暮らしを支えてきました。松川事件の公正な判決を決める運動が国の内外に広がる中、昆布巻が市内の有名店で取り扱われ、学校給食にも登場しました。学校給食は、「子どもたちにカルシウムを」と、煮干しを巻いて日に4000本も作ったことがあったとか。

甘からず、しょっぱからず、とろりとした昆布巻。私たちの支部でも教えていただき、楽しんでます。

※松川事件：1949年(昭和24年)列車転覆事故。3名が死亡し、4名が重軽傷を負いました。当時の国鉄、東芝の労働者20名が、一審、二審とも死刑を含む刑が科せられましたが、14年もの闘いで全員無罪を勝ち取りました。

昨年ヤイさんが100歳を迎えられたことを記念して、2010年新年号に掲載した昆布巻を再度掲載します。

## お年玉プレゼント



いつも機関紙を読んでいただいている組合員のみなさんとご家族に、絵本を抽選で5名の方にプレゼントします! ご希望の方はハガキに、1~3の事項を記入し、1月31日(月)までにお送りください。抽選結果の発表は2月下旬です。発送をもって当選者といたします。



- ①「手ぶくろを買いに」  
作:新美南吉 絵:黒井健 (偕成社)
- ②「ピン・ポン・バス」  
作:竹下文子 絵:鈴木まもる (偕成社)
- ③「とんとん とめてくださいな」  
作:こいでたん 絵:こいでやすこ (福音館書店)
- ④「せいめいのれきし」  
作:バージニア・リー・パートン (岩波書店)
- ⑤「ぼくのうまれたところ、ふくしま」  
作・絵:松本春野 (福島民友新聞社)

東日本大震災、そして東京電力福島第一原発事故から10年。避難を余儀なくされた こうた一家が、再び福島へ。こうたにとって福島は未知の場所だった——語り部の話から生まれた物語。

## デイサービスひだまりのボランティアが再開しました!!



ボランティアひだまり 引地 美智子

2020年5月から休止していたボランティア活動が、11/22(月)より再開しました。

当日は、久しぶりのボランティアに、何とも言えない高揚を感じました。利用者のみなさんは、この1年半で約半分が新しい方に替わっていました。それでも私の姿をみると、遠くから手を振って喜んでくれている方もいて、覚えていてくれたことをとてもうれしく思いました。

私たちボランティアひだまりの会員も高齢になりましたが、「少しでも、誰かのお役に立てれば…」と、みんなががんばっています。

### ボランティア募集

デイサービスひだまりと、わたり病院FAXコーナーのボランティアを募集しています。短い時間でも結構ですので、ご協力いただける方はご連絡ください。

### 記事募集

組合員のみなさんからの記事を募集しております。ご意見ご感想、身の回りのことなどをお寄せください。素敵な作品なども大歓迎です。

●お問合せ/福島医療生協組合員活動部 Tel.522-1236

無料

## 法律相談会

- 日 時/毎月第2木曜日 13:30~15:30  
※日には変更になる場合があります。
- 場 所/医療生協わたり病院内  
事前申込制 Tel. 024-522-1236
- 相談員/あぶくま法律事務所弁護士

### 【記入事項】

- 1.住所、氏名、電話番号
- 2.希望の本を1冊選択し記入
- 3.福島医療生協の機関紙へのご感想

### 【宛先】

〒960-8141  
福島市渡利字中江町66  
福島医療生協機関紙係